

第 3 回辻井重男セキュリティ学生論文賞 セキュリティマネジメント学生賞 審査講評

今年度で第 3 回を迎えた辻井重男セキュリティ学生論文賞には、全体で昨年と同数の 17 件の応募をいただきました。内訳は、セキュリティマネジメント学生賞に応募の論文が 10 件、情報セキュリティ学生賞への応募が 7 件でした。

セキュリティマネジメント学生賞の審査は、この 10 件を対象として、新規性（新規性が論文の中で主張されているか、先行研究等との関係が示されているか）、有効性（現実の問題についての解や効果が期待できるか）、信頼性（論理展開が明快で主張の根拠が明確に示されているか）を中心に、辻井賞の趣旨に照らして適切であるかなどを考慮して行われました。いずれの論文も、辻井賞にふさわしい内容で、1 次審査、2 次審査ともに真剣にかつ熱のこもった審査が行われました。応募いただいた皆様に感謝いたします。

審査の結果、今年度はセキュリティマネジメント学生賞 1 編に加えて、セキュリティマネジメント学生論文努力賞 2 編が選ばれました。

1. セキュリティマネジメント学生賞

- 主筆者 鈴木智也 さん

（中央大学理工学研究科電気電子情報通信工学専攻）

『情報セキュリティ対策間の相互依存関係を用いた内部犯行防止対策のための有効性評価手法』

講評：内部犯行による情報漏えい事故が増えてきているが、今までの情報セキュリティ対策では、内部犯罪防止の有効性を検証していない。そこで、この論文では、内部犯罪を防止する情報セキュリティ対策を考えるための手法を、ISO/IEC 27002 の管理策を整理して階層化し、フォールトツリー分析と組み合わせて実現している。提案した手法を実際の情報漏えいのケースを用いて検証して有効性を示すとともに、その事件が起きた背景になる「不足している情報セキュリティ対策」を効果的に洗い出せることを示している。論文は、実用的で網羅的であり、有意義である。

2. セキュリティマネジメント学生論文努力賞

- 主筆者 村上真教 さん

（東京電機大学情報メディア学専攻）

『IP トレースバックにおける出国印方式の拡張と評価』

講評：攻撃者の IP をトレースバックすることで、攻撃元を特定する方式のうち、出国印方式に着目し、MAC 挿入方式が中規模以下の DDoS 攻撃に対して効果があることを示している。提案方式は、実際の運用面からの評価がなされており、実用性が高く、結果は意義深い。

- 主筆者 高間 浩樹 さん

(電気通信大学大学院電気通信学研究科人間コミュニケーション学専攻)

『取調べの可視化における技術課題の明確化と対策提案』

講評：取調べの可視化について技術の視点から分析して5つの技術課題を明らかにし、それらを解決する対策案を示したタイムリーな優れた論文である。取り調べのプロセス改革と歩調を合わせて、実用化に向け更なる研究が期待できる。

セキュリティマネジメント学生賞は、賞状に加えて賞金 10 万円が、セキュリティマネジメント学生論文努力賞は、賞状に加えて本学会の全国大会並びに学術講演会の招待券が授与されます。

受賞された皆様、おめでとうございます。